

Abstract: 本研究では、政府と労働者をエージェントとする経済分配モデルに選挙と投票行動を組み込み、マルチエージェント強化学習によってその相互作用をシミュレートする。経済主体間の生産性の異質性を明示的に取り入れ、実世界では困難な経済政策の効果や制度設計のシナリオを仮想的に検証できる枠組みを構築する。強化学習を用いることで、各エージェントが環境との相互作用を通じて自律的に最適な行動を学習し、分配政策・労働行動・投票選択の相互関係を分析可能とする。これにより、投票を通じた市民の意思がどのように政策に反映され、また政府が選挙を意識してどのような行動をとるかを理論的に捉えるための有効な手法となることが期待される。